館長　安藤良雄氏を悼む

当三井文庫館長・理事安藤良雄博士は、去る五月六日、入院中の日本医科大学付属病院において、心不全のため逝去された。享年六七。

氏は大正六年(一九一七)七月東京に生れ、東京高等師範付属中学校、弘前高等学校を経て東京帝国大学経済学部に入学、昭和一六年(一九四一)一二月卒業して直ちに同大学助手に任用されると同時に海軍に召集され、同二〇年一〇月復員して大学に戻られた。以来東京大学の教職にあること四〇年、その間、特に戦中・戦後の日本資本主義の歴史という未開拓の新分野に研究のメスを加えて顕著な業績をあげられると共に、自由な学風によって多くの優れた研究者を門下から輩出された。

氏がその温厚な人格と高い識見の故に、東京大学経済学部長・付属図書館長等の要職を歴任され、昭和五三年停年退職後は成城大学長の重職に就任される傍ら、大学基準協会・大学設置審議会・日本学術会議等の公務を兼ね、また社会経済史学会代表理事、土地制度史学会常任理事に就かれる等、教育界・学界のために広く寄与するところが多かったことは、人のよく知るところである。

氏の三井文庫との関係は、長く且つ深かった。即ち、昭和四〇年(一九六〇)五月、財団創立と同時に評議員に就任されたのに始り、同四三年五月監事に就任、同五〇年には初代館長柳川昇氏逝去のあとをうけて三井高棟傳記編纂委員長を委嘱され、ついで同五五年五月から館長・理事に就任された。

当文庫館長としての氏は、文字通り多忙な寸暇を割いて指導・統括の任に衝たられたが、特に三井家から貴重な美術品及び切手コレクションを文化史料として寄贈をうけ、その保存・展示および研究を行なうための別館の新設に尽力された。

しかるに偶々昨年一〇月、文部省の公務で出張中の名古屋市で突然心筋梗塞の発作に襲われ、以後名古屋大学医学部付属病院、杏雲堂病院および日本医大付属病院において手厚い医療をうけ、鋭意療養につとめられたが、半歳を超える闘病も空しく、遂に不帰の客となられた。平素から人一倍健康に恵まれておられただけに、予期された多くの春秋を遺して他界されたことは、誠に痛恨の極みである。

氏の長逝後旬日を経ずして開館した当文庫別館の一隅に、氏の強い希望によって設計変更して設営された館長室がある。遂に主じを迎えることなく閉された儘のこの部屋の扉に佇むと、公務を勤め上げられた後ちに、腰をここに据えて長く文庫の運営に専念する日の到来を期待しておられた氏の心情が偲ばれて、胸のつまる想いを禁じ得ない。

氏が開館を待ち望んでおられた別館も滞りなく発足し、また多年手掛けつづけられた三井高棟傳も完成の目途がついた今日、追悼の念の一層切なるものがある。ここに改めて当文庫に対する永年のご指導を感謝し、ご冥福を祈るとともに、館員一致して氏の遺志を継ぎ、館業の一層の発展に努めることを期するものである。（一九八五年一〇月　中井信彦）